

ふちゅう歴史散歩 Vol.139

良吏・藤原園人と備後国

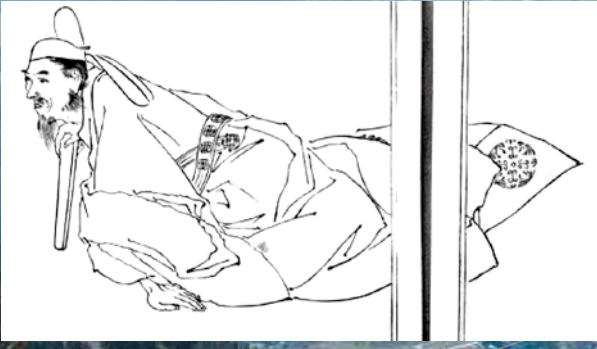
良吏とは、律令の基本にある儒教的な精神に基づいた「仁政」を行った官人のことです。そうした人物の一人に藤原園人がいます。彼は藤原北家の祖である房前の孫です。宝龜10年(779)に従五位下・美濃介となり、少納言・右少弁を経て、備中守・安芸守・大宰少式・豊後守を務めました。大同元年(806)には参議そして山陽道観察使となります。観察使とは諸国の政治をチェックする役職ですが、就任直後から地域の実情を踏まえ、民衆の負担軽減につながる提言を数多く行っています。地方官を歴任していた園人には適任であったのでしょうか。

大同4年以降、中納言・大納言と昇進し、弘仁3年(812)に右大臣となりますが、同9年に63歳で亡くなります。

このような園人ですが、延暦8年(789)2月に備後守に任命されています。しかし翌3月には大宰少式となります。わずか一ヶ月で

の異動であり、この段階で彼が備後国の政治に関わることはなかったと考えられます。

しかし、山陽道観察使となつてからは、備後国司から状況を聞いたり、場合によっては備後国内を視察することもあったかもしれません。9世紀初頭の備後国の状況を踏まえた政策提言が行われた可能性も低くはないでしょう。



藤原園人(『前賢故実』巻3、国立国会図書館デジタルコレクションより)

—市民レポーターが府中の魅力を投稿します—

ふちゅう Sai 発見!

「大運動会を終えて」

高校生編 その96



投稿者(文と写真)

府中高校3年
佐竹 元基さん

9月15日(木)に本校で大運動会が行われました。この行事において私は、紅団の団長を務めさせていただき、「主体性の大切さ」を学びました。

紅団を立ち上げて間もないころは、団員の人数が少ない上に、まとまりもないただの「集まり」だったと思います。話し合いをしても、譲り合ったり、いつの間にか関係ないことを始めたりして、団をまとめることができるかどうか不安でした。

そのような「集まり」が「団」に変わったのは、本番一週間前でした。紅団の演舞は一応、完成しましたが、キレと迫力に欠けていました。その状態に耐えかねた一人の団員が自分の意見をみんなに伝えました。それをきっかけに団は変わりました。

た。全員が演舞を良いものにしたいという思いを話し合いに積極的に出すようになりました。男女や学年などの壁もなくなり、最高の演舞ができたと思います。その結果、紅団は、総合の部と応援の部で優勝することができ、全員で喜びを分かち合うことができました。これは、主体的に何事にも全力で取り組んだ結果だと思います。

これから、3年生は受験期に入り、1・2年生も進路について真剣に考えなければならぬ時期になると思います。主体性をもてば計画的に取り組むことができると思います。やると決めたことを最後まで全力で、全員で頑張っていこうと思います。

府中市 R C C ラジオ番組「府中に夢中！」

毎週月曜日16:30~16:45(そのうちの5分間) R C C ラジオ(1530KHz)

今月の放送日 11月7日(月)・14日(月)・21日(月)・28日(月)

府中市のマチ・ヒト・モノに注目し、聞いて楽しく、府中市を感じられる内容をお届けします。



公式 SNS
LINE



公式 SNS
facebook



スマホアプリ
radiko(ラジオ)

府中市メール配信
サービス

